

平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立北昭和小学校

学級数 13学級

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標

もちあじを生かし 自ら考え 表現できる子の育成

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

1 取組のきっかけ

学力向上に向けて組織的に「学力向上プロジェクト」を平成23年度より取り組んでいる。学校長の経営方針のもと、昨年度の学校評価や保護者アンケートを踏まえ今年度は、以下の取組を重点的に行うことにした。

2 取組の位置付け

教務が中心となり、全校体制で活動の改善充実を進めている。

3 取組の方法

昨年度から毎月1回放課後の補習「算数寺子屋」の実施や家庭学習の習慣化を目指し「家庭学習手引書」の作成などを行った。児童の参加・取組の状況もよく、保護者アンケートでも高評価を得た。

さらに今年度は、以下の4点に重点を置き取り組んでいる。

- ① 算数の習熟度別学習・・・年間1～2単元で実施予定。
- ② 長期休業中の学習会・・・3年生以上対象。算数の教科書を中心に自主学習を行う。
- ③ 子どもたちの学習評価・・・可能な限り日常的に子どもたちによる学習評価を取り入れ、授業改善に役立てる。
- ④ 朝の「ミニ作文」・・・書くことへの抵抗感を緩和し、子どもたちに書く習慣を身に付けさせるため、研究部と連携を図りながら、週1回行っている。

また、異校種間や保護者・地域との連携を意識し、以下2点に取り組んでいる。

- ① 地域公開参観・・・9月に近隣の幼・中学校にも案内を出し、学習の様子を見ていただくよう設定している。また、懇談会は前期の反省や後期の方策を保護者に説明し、ご意見をいただき、後期の活動に生かすことができるようにしている。
- ② 学習常規の徹底・・・近隣の中学校の学習常規を参考に本校の学習常規を見直し、各教室に掲示している。

取組の成果と課題等

○ 取組の成果

- ・算数の習熟度別学習・・・年間1～2単元で実施予定。

(成果) →子どもたちの実態に即した学習を進めることができた。子どもたちからも、「自分たちのペースに合わせた学習ができる。」「わかるようになった。」と好評だった。

- ・長期休業中の学習会・・・算数の教科書を中心に自主学習を行う。

(成果) →夏季休業同様、冬季休業中も学習会を開催。冬季休業中は2年生以上を対象に行った。保護者にも取組が浸透しつつある。夏季休業中の反省を踏まえ、冬季休業中は教科書だけではなく、それぞれの学年の実態に合わせ、冬休みの宿題やその他の課題に取り組んでもよいとした。今後も継続していく予定である。

- ・子どもたちの学習評価・・・可能な限り日常的に子どもたちによる学習評価を取り入れ、授業改善に役立てる。

(成果) →授業に関するアンケートを可能な限り行った。子どもたちのアンケートからも、授業を振り返り授業改善に努めるようにした。

- ・朝の「ミニ作文」・・・週1回行っている。

(成果) →継続した朝の取組で「書く」ことへの抵抗感が徐々に薄れてきている。校内の掲示板に「ミニ作文」を掲示し、交流を図っている。互いの成果を読み合うことで、意欲へとつながってきている。

- ・地域公開参観・・・9月に近隣の幼・中学校にも案内を出し、学習の様子を見ていただいている。

(成果) →近隣校の中学・幼稚園の先生や学校評議員（学校関係者評価者）の方々が来校した。授業後、評議員の方々から授業に関する意見をいただき、後期の活動に生かすことができた。

- ・学習常規の徹底・・・各教室に掲示している。

(成果) →学習常規を教室に掲示し、常に確認できるようにしたことで、授業前の準備など大まかに統一することができた。

○ 教育課程検証の方法

- ・今年度から教育課程検証の方法を見直し取り組んでいる。年度初めに教育課程に関する短期目標や評価観点を設定し、PDCA マネジメントサイクルで先生たちが適宜評価を行いながら、学力向上に取り組んでいる。

- ・保護者アンケートと児童アンケートを適宜行い、自己評価の客観的資料として活用している。

- ・1・2学期末に低・中・高学年ごとに学級経営交流会を行い、学年学級の様子や家庭学習の取組、学習常規に関わる話し合いを行った。学級経営交流を行ったことで、よりそれぞれの取組についての意見交流ができ、共通理解を図ることができた。